

平成19年7月25日
北海道農政部

降雹・大雨による営農技術対策について

7月23日は全道的に大気の状態が不安定となり、オホーツク海側の網走支庁管内を中心として、同日13時から21時にかけて、突風を伴う大雨と雹が降りました。

この影響で、小麦、たまねぎ、ばれいしょなどの農作物に被害が発生しました。

影響を受けたほ場においては、以下の技術対策を参考に、状況に応じた適切な対応に努めてください。

第1 共通事項

- 1 地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- 2 排水路、明きょなどが土砂で破損している場合は、必要に応じて修復する。
- 3 病害虫の発生に注意し、適切な防除に努める。農薬を使用する際には、農薬使用基準を遵守するとともに、残留農薬の「ポジティブリスト制度」に対応した適時適切な散布に心がける。なお、農薬散布時のドリフト対策については、平成18年3月18日発表の「安全な農産物の供給に向けた営農技術対策」(<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/center/sakkyo/05gijyutu/1700-6.htm>)を遵守する。

第2 畑作物

1 小麦

- (1) 秋まき小麦の倒伏した部分は、アミロが低下するなど品質が劣るため、正常な小麦と混ぜないように、別刈りして乾燥調製を行う。
- (2) 春まき小麦では、赤かび病の発生が心配されるので防除を徹底する。

2 豆類

茎葉損傷に伴い「べと病」(大豆)、「灰色かび病」、「茎疫病」の発生に留意し、ほ場の乾燥を待って早急に防除を行う。また、害虫の発生加害に注意し、防除を徹底する。

3 ばれいしょ

- (1) 茎葉損傷により「疫病」、「軟腐病」の発生に留意し、防除を行う。
- (2) なお、軟腐病はオキシリニック酸水和剤に対する低感受性菌が確認されているので、連続散布は行わず、作用性の異なる他剤とのロ - テ - ション防除を行う。なお、本剤および本剤を含む混合剤の使用は1作期2回までとする。

4 てんさい

- (1) 茎葉損傷に伴い「褐斑病」などの病害防除を行う。
- (2) 根元に雹の打撲を受けたものや滞水した部分では、根腐病の発生が懸念されるので、早期発見に努め適正に防除する。
- (3) ヨトウガの発生、加害に注意し防除を徹底する。

第3 野菜類

1 たまねぎ

- (1) 茎葉の損傷や球表面の傷により軟腐病や貯蔵腐敗（りん片腐敗病・灰色腐敗病）が発生し易いので、防除を行う。なお、オキシリニック酸水和剤の使用にあたっては、作用性の異なる他剤とのローテーション防除を行い、連続散布を避ける。
- (2) 製品への腐敗球の混入を避けるため、罹病球は、収穫前に選別除去して、ほ場外に搬出して適正に処理する。
- (3) 球表面の小さな傷でも貯蔵性に影響するので、収穫後は雨が当たらないようにして、風通しの良い場所で風乾をしっかりと行う。

2 にんじん

- (1) 土壌水分過多により、着色不良、軟腐病・根腐病の発生が多くなる。また、肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生も多くなるので防除を行う。
- (2) さらに、傾斜ほ場では土壌流亡により、青首の発生が多くなるので、土壌流亡のある畑は、ほ場乾燥後に培土を行ってから病害防除を行う。
- (3) 収穫にあたっては、品質の劣悪なものが混入しないよう、選別を徹底する。

3 ながいも

- (1) つるが支柱ネットから脱落している場合は、再度つる上げを行う。
- (2) つる切れしたいもは、先端がとがった未熟いもとなり、品質も低下するので選別を徹底する。

4 かぼちゃ

- (1) 茎葉の損傷をうけた部位より疫病やべと病の発生が懸念される。よって、登録農薬により防除を行う。
- (2) 損傷をうけた果実は、選別を徹底する。

第4 飼料作物

1 サイレージ用とうもろこし

倒伏や折損により、収穫時に土砂が混入する場合は、サイラージ発酵品質やTDN含量の低下をまねくので、土砂の付着量に応じて刈取り高さを変えるなど注意する。